

歴史まち歩き

「民衆の台所」として 町を支えた、物流の一大拠点

7 堀川・納屋橋～円頓寺界限

コース【納屋橋東詰 ▶ 多賀宮】

慶長15年(1610年)名古屋城築城とともに開削された堀川は、街道とともに物流を担う重要な役割を果たしました。堀川は、米をはじめ、木材、穀物、海産物、諸雑貨などを運ぶ物流の大動脈として人々の生活やまちの発展を支えてきました。また、花見の名所として多くの人々に親しまれるなど憩いの場でもありました。城下町「名古屋」の繁栄は、堀川の水運とともにあったのです。江戸時代の商家の蔵が今も残り、当時の町の賑わいぶりを偲ばせる町並みを歩きます。

1 納屋橋(なやばし)

慶長15年(1610年)の堀川掘削とともに架けられた「堀川七橋※」の1つ。何度か架け替えられ、現在の橋は1981年に拡幅して架け替えられたものです。アーチ橋の欄干中央には、堀川開削の総奉行であった福島正則の家紋「中貫十文字」と織田信長・豊臣秀吉・徳川家康の3英傑の家紋があしらわれています。(※堀川七橋は、上流から下流に向かって五条橋、中橋、伝馬橋、納屋橋、日置橋、古渡橋、尾頭橋です。)

2 浅間神社(せんげんじんじや)

木花咲那媛命(このはなのさくやひめのみこと)を祭神とする古社ですが、創建は不明です。正保4年(1647年)に現在地へ勧請されました。境内には300年以上の樹齢を誇るケヤキがあります。

3 屋根神様(やねがみさま)

古い民家の屋根や軒下にある小さなお社。これが全国的にも珍しい「屋根神様」。津島神社・秋葉神社・熱田神宮が、火災や疫病除けのために祀られています。これは昔の人たちの多くが長屋住まいで、社を建てる土地がなかったことによる生活の知恵から生まれたもの。起源は江戸末期といわれています。

専修寺名古屋別院 (せんじゅじなごやべついでん)

真宗高田派の寺院。本尊の阿弥陀如来立像は恵心僧都作と伝えられています。正保4年(1647年)の創建で、明暦3年(1657年)に現在地に移転。享保9年(1724年)の大火で焼失しましたが、元文3年(1738年)再興されました。昭和20年の空襲で、山門鐘楼堂、土蔵、水屋を残してすべて焼失してしまい、現在の本堂などは戦後再建されたものです。

4 四間道(しけみち)

堀川に沿って土蔵が立ち並ぶ地区。元禄13年(1700年)の大火の後、防火対策として堀川端の間屋筋の裏の道幅を四間(約7m)に広げ、蔵を並べました。このことがその名の由来といわれています。当時の商人の隆盛が窺える建物が多く残り、名古屋市町並み保存地区にも指定されています。

5 伊藤邸(いとうてい)

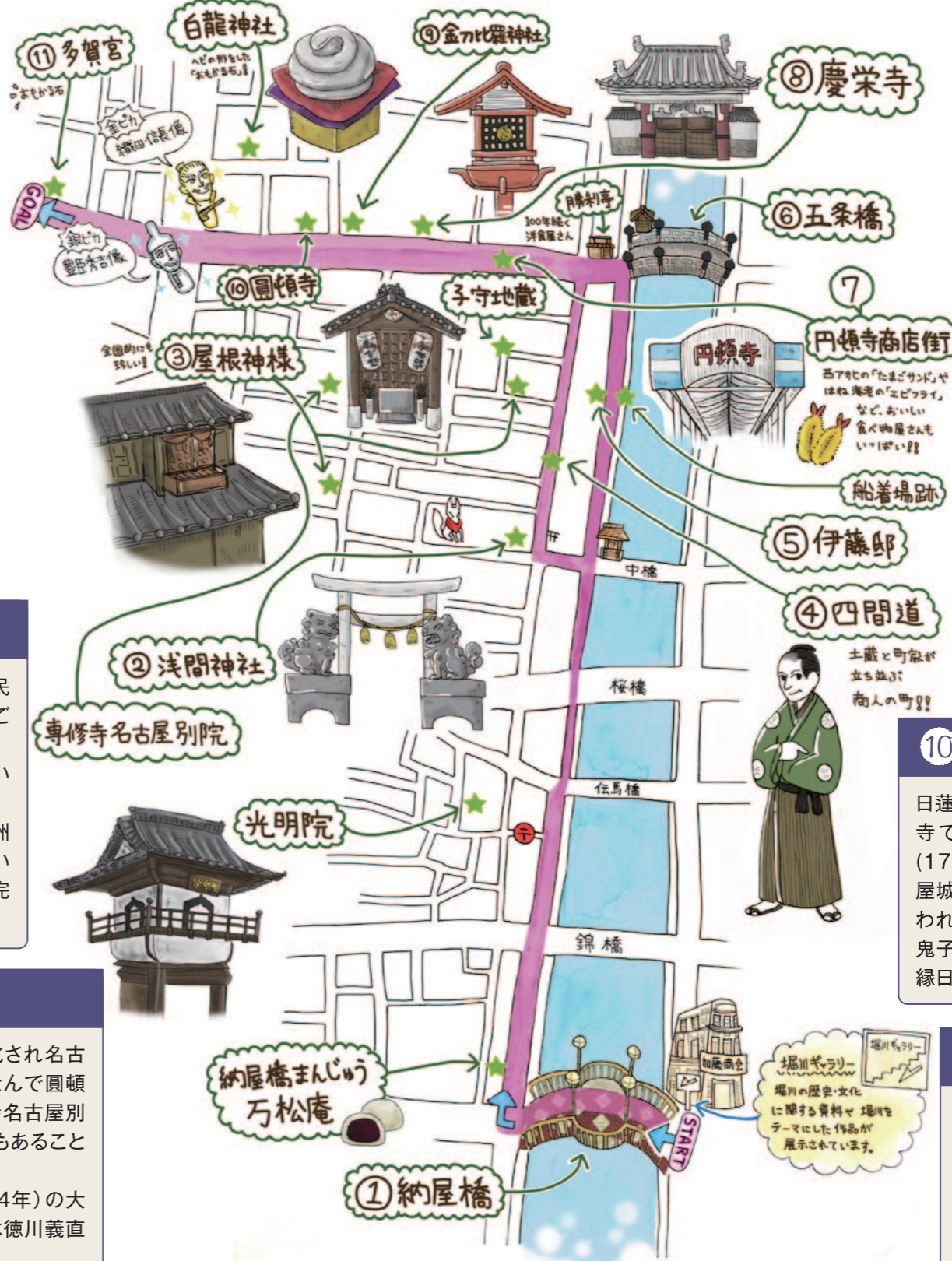
川伊藤といわれる伊藤家は、いわゆる「清洲越し十人衆(きよすごしじゅうにんしゅう)」と呼ばれた豪商の一人で、苗字・帯刀を許されていました。享保年間に建築された主屋や土蔵が現在も残り、県指定の文化財となっています。堀川沿いには、当時、米などの物資を船から積み下ろしを行った船着場跡や一時的に荷を保管しておいた蔵なども残っており、県文化財に指定されています。

6 五条橋(ごじょうばし)

徳川家康の号令一下、およそ7万人ともいわれた武士・町民から、寺社や町名にいたるまで、清洲城下の大部分をまちごと移転するという前代未聞の「清洲越し(きよすごし)」。五条橋はもともと清洲城下を流れる五条川にかけられていた橋で、「御城橋(ごじょうばし)」と呼ばれていました。清洲越しを強制された町民たちに、長年馴染んできた清洲城下の名残りを持ち込んで心理的な抵抗感をなくするという政策の一つとして、橋材とともにその名も移し、堀川の完成とともに架橋されました。

7 円頓寺商店街(えんどうじしょうてんがい)

堀川に掛かる五条橋から西に向かい、江川(現在は暗渠化され名古屋市道江川線)の上島橋までを圓頓寺(えんどんじ)にちなんで圓頓寺筋と呼んだのが始まりで、南側にある真宗高田派専修寺名古屋別院から御本坊筋(ごほんぼうすじ)とも呼ばれ、慶栄寺などもあることから門前町として発達しました。なお、圓頓寺が現在地に移転して来たのは享保9年(1724年)の大火の後で、それ以前は武家屋敷が多く立地しており、古くは徳川義直の側室・貞松院の下屋敷なども置かれていました。



8 慶栄寺(けいえいじ)

境内にある太子堂は奈良の元興寺五重塔の古材で造られ、聖徳太子像が祀られています。松涛庵は足利義政が銀閣寺を建てたとき、茶室として造らせたものを京都東山より移築したといわれています。(現在は一般公開されていません)

9 金刀比羅神社 (こんびらじんじや)

円頓寺商店街の中に鎮座する金刀比羅神社。名古屋城築城当時より、城内三の丸の大道馬邸に祀られていたものが、安政6年(1859年)にこの地に遷座されました。小さなお社ですが、町の人たちに大切に守られており、気軽に立ち寄ってお参りできる、下町情緒溢れた神社です。毎年10月10日には大祭が行われます。

10 圓頓寺(えんどんじ)

日蓮宗の寺、長久山圓頓寺は京都立本寺の末寺で、承応3年(1654年)創建、享保9年(1724年)に今の地に移りました。本堂は名古屋城天守閣使用の余材を拝領して建てたといわれ、本堂脇には藩祖義直の側室が寄進した鬼子母神像が安置されています。毎月18日に縁日法要が行われています。

11 多賀宮(たがぐう)

伊邪那岐命(いざなぎのみこと)、伊邪那美命(いざなみのみこと)を祀る、延命と縁結びの神社。神社には珍しい「おもかる石」があり、さまざまな願い事のほか、近年では恋愛成就を占う参拝者に人気があります。